

# 教育研究業績書

所属	職名	氏名
幼児教育学科	助教	佐藤 亮平

## I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
(1)教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)	平成25年4月～平成30年3月	北翔大学「生涯スポーツ演習(サッカー)」 本実践を受講する学生は教員志望の学生が多数おり、教育実習及び教員になった後に指導が行えることが求められる。そのため、最初の3回は座学を行い、スポーツ文化論、学校体育論、サッカーの研究動向について講義した上で、実践へと移る。実践ではサッカー経験者をリーダーとしたグループ学習を展開し、未経験者が上達し、サッカーの本質的な楽しさを味わえる練習を行うために必要なことをグラウンド上で議論しながら、指導者に必要な技能を高める授業を展開している。
	平成25年4月～平成30年3月	拓殖短期大学「生涯スポーツ演習」 学生は運動が得意な学生から苦手な学生まで技能差の大きい集団であり、留学生も10名程度参加する授業である。本授業では多様な種目使った運動を学習することを通じて、普段の生活の中でコミュニケーションをあまりとらない学生同士が協力することで学習集団を機能させる。また、冬季の期間は屋外でアイスホッケー、クロスカントリー、ソリ遊びなどを行う。これらのスポーツ実技を学習者へ指導する際の方法論を実践している。
	平成26年4月～現在	北海道ハイテクAC「サッカー教室」 指導対象はキッズ(4歳から6歳)、ジュニアAB(7歳から12歳)、ステップアップ(競技力向上プログラム)の3教室である。キッズはボールを操作することを中心に1対1から2対2を行うために必要な技術や戦術的能力を獲得することを目的とし、ジュニアABは3対3から5対5に必要なグループで攻防を展開することができる能力の育成を目指している。そして、ステップアップでは地域の少年団との練習試合や大会参加を行い、プレーヤーとしての技能の向上を目指す指導を行う。また、指導者の育成も担っているため、指導案の指導や指導実践に対するフィードバックを行う。サッカーを指導するための方法論を指導している。
(2)作成した教科書・教材・参考書		
(3)教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
(4)その他教育活動上特記すべき事項		

## II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻、号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
(著書)					
スポーツの主人公を育てる体育・保健の授業づくりー指導案の基本とプラン集ー	共著	平成30年3月	創文企画(211頁)	学校体育研究同志会編	pp.48-51
(論文)					

サッカーの戦術の発展と現代サッカーの戦術	共著	平成23年3月	体育方法専門分科会:奨励賞報告、第24巻、第2号	佐藤亮平・竹田唯史	pp. 225-228
サッカーの技術・戦術構造に関する考察(査読有)	共著	平成23年3月	北海道体育学研究、第46巻	佐藤亮平・竹田唯史・近藤雄一郎	pp. 65-78
学校体育におけるサッカーの指導の教育内容と教材の変遷に関する一考察(査読有)	共著	平成27年9月	北海道体育学研究、第50巻	佐藤亮平・近藤雄一郎	pp. 81-91
サッカーの戦法とシステムの歴史的発展に関する再考察(査読有)	単著	平成27年9月	北海道大学教育学研究院紀要第123巻		pp. 115-135
サッカーの技術的特質に関する一考察(査読有)	共著	平成28年8月	北海道体育学会、第51巻	佐藤亮平・近藤雄一郎	pp. 33-39
歴史文化的発展過程から見たサッカーの指導方法に関する研究-教授プログラム作成の試み-(博士論文)	単著	平成29年9月	北海道大学教育学研究院		
幼児体育における遊びに関する一考察	単著	平成30年2月	『次世代育成研究・見やらい幼児教育学科50周年記念誌』第14巻別冊、尚綱子育て研究センター		pp. 107-115
「健康」領域の変遷に関する考察	単著	平成30年3月	『次世代育成研究・見やらい』第15巻、尚綱子育て研究センター		pp. 3-13
(その他)					
バレーボール女子日本代表におけるデータ分析とその活用方法について	単著	平成25年7月	たのしい体育・スポーツ、2015年7・8月合併号		pp. 30-33
歴史文化的内容を取り入れたゴール型ゲームの新しい指導法	単著	平成30年6月	体育科教育、第66巻、第6号、2018年		pp. 38-41
<b>Ⅲ 学会等及び社会における主な活動</b>					